

基調講演

鈴木真名

私が臨床で顕微鏡を使用しはじめたのが1997年。顕微鏡下における歯科治療がスタンダードになると予測、期待し20年を迎える。

初めて顕微鏡下で患者の口腔内を見た時の感動は今も鮮明に記憶に残っている。そしてこの時、歯科治療において顕微鏡が不可欠の時代が到来することを確信した。

2016年10月、福岡において日本歯科医学会総会が開かれたが、総会のシンポジウムで顕微鏡歯科が初めてテーマとして取り上げられた。このことは、私にとって大きな喜びであり、日本歯科医学会における前進であると感じている。

20年前、私が顕微鏡を使って治療していることを友人たちに伝えると、変わり者に接するように「よくやるよね」と言われたものである。しかし、そうやって笑っていた友人たちも現在では全員が顕微鏡を使用している。

顕微鏡を使うことで、われわれの臨床は確実にレベルアップする。それは、1ランクなのか、2ランクなのかはわからないが、同じキャリアの者が、ただ1つの機材を使用するだけでクオリティが高まる。そしてこれは、すべての歯科分野に同様に言えることと考える。

今回、基調講演のタイトルとして、本大会のメインテーマである“顕微鏡が歯科をリードする”を使わせていただいた。私の20年の顕微鏡歯科での経験と臨床を通して振り返るとともに、その必要性・有効性をお伝えしたい。

1984年 日本大学松戸歯学部卒業
1989年 鈴木歯科医院 開業
2008年 鶴見大学歯学部 口腔顎顔面インプラント科非常勤講師
2009年 日本大学松戸歯学部 客員教授

- ・日本歯周病学会 専門医
- ・日本臨床歯周病学会 指導医
- ・AAP (American Academy of Periodontology)
- ・AMED(Academy of Microscope Enhanced Dentistry)
- ・SJCD (Society of Japan Clinical Dentistry) インターナショナル 常任理事
- ・東京 SJCD 顧問
- ・OJ (Osseointegration Study Club of Japan) 特別顧問